

映像を通じた企業の「ものがたり」の発信と企業間連携の推進

大阪府大阪市の株式会社大阪ケイオスは（従業員 6 名、資本金 190 万円）は、東大阪市の中小企業・小規模事業者の企業間連携に取り組む企業である。株式会社新日本テック（大阪府大阪市）の和泉康夫社長の、「“ものづくり”企業は製品の性能ばかりを語っているが、むしろ、企業の“ものがたり”を映像化することによって、作り手の思いを理解してもらい、心に響かせたい」という思いが発端となり、東大阪の中小企業の経営者に声をかけ、2010 年に大阪ケイオスを設立した。名前の由来は「chaos（混沌）」だが、参加各社の元気なエネルギーが満ちた状態をイメージしており、一人ひとりがその中から新しいものを創造していきたいという思いが込められている。

同社が取り組んだ映像作成は、合同会社アースボイスプロジェクト（神奈川県鎌倉市）の榎田竜路氏がプロデュースしたものであり、製品のみを紹介ではなく、社長の思いや職場の雰囲気等、企業の個性がストーリーとして語られており、映像を見た人にインパクトを与えるものとなっている。

このような“ものがたり”の映像化から始まった大阪ケイオスだが、人材採用・育成、共同受注、製品開発等、さまざまな企業間連携の場として発展してきている。例えば、大阪ケイオス参加企業は、1 社あたり毎年 1～5 名程度の新卒採用を行っているが、その規模では個社で人材育成を行うことが難しい。そのため、参加企業全体で内定者研修・新入社員研修を行っている。企業間で連携して研修を行うことによって、効率的な人材育成ができるだけでなく、企業の垣根を越えて「同期の絆」が生まれ、社員同士の横のつながりが企業力の連携に繋がっている。またこうした取組を通じた知名度の向上により、採用段階で応募者が増え、多様性も高まっている。

また、参加企業内での共同製品開発も進んでいる。兵庫県のソフトウェア会社が、パンをスキャンして値段を表示する機器を開発したが、そのデザインを大阪ケイオス参加企業で行った。通常は設計から試作品の製造まで行うと非常に時間がかかるが、協働作業によって非常に早い期間で試作品が完成した。こうした新商品開発の機会得られたのも、大阪ケイオスのホームページで各社が映像を公表し知名度が向上したことや、大阪ケイオスでの活動を通じて企業間連携が進んだことによる影響が大きい。

和泉社長は、「各社が得意なものを持ち寄って、ひとつのチームを作ると、各企業のストライクゾーンを外れた新しい仕事にも対応できるようになる。新しい仕事に貢献していくのが生きる道である」と話している。

こうした企業の思いを映像によって形にし、企業間で共有することも企業の連携を推進するためには必要と考えられる。



展示会に出展時の様子

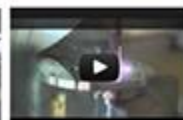
映像一覧



株式会社大橋金属工業
「世間に残されたワールドイーター」
～Osaka Chaos「序」
「続」はこちら～



和歌山県川上製作所
「物」に話をつけて
「速」を速く
～Osaka Chaos「序」
「続」はこちら～



ガブナーテクノセル株式会社
「熱帯夜の真なるものを録音する」
～Osaka Chaos「序」
「序」で先へ 未来を創る
「序」はこちら～



広栄工業株式会社
「未来の素材を身出さず」
～Osaka Chaos「序」
「続」はこちら～



株式会社ツカイテック
「驚く、モノづくり」
～Osaka Chaos「序」
「続」はこちら～



株式会社三栄金属製作所
「一業種、一社」の信念
～Osaka Chaos「序」
「続」はこちら～

参加企業の映像の例